



芝小だより

第九月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



「徹底への勇氣」

―百四十周年記念行事を控えて―

校長 齋藤幸之介

今年、早い梅雨明けから猛暑日が続く、また台風も多く発生するなど、「記録的な」という言葉が何度も登場する気象状況でした。以前は、気温より低い温度の水中で体を冷やさないようにするために、プールサイドで体温を保持する時間をどれだけ確保するのかに配慮してまいりました。今夏は、逆に温度が高くなるプールサイドで体温を上げないようにするために水中での指導をできるだけ長い時間確保することを重視しました。しかし、水温もゆうに三十℃を超えてしまい、対応に苦慮いたしました。夏季水泳教室を中止する場合も生じてまいりました。プールサイドでの過ごし方について保護者の方々に御意見をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。今後さらに適切な対応をするべく具体策を考えてまいります。

その他、本芝町会、新堀町会、そして今年度より新たに金杉町会の方々にラジオ体操を行っていただきました。今まで築いてきた生活リズムを維持しながら体を目覚めさせ、さらには体力の保持増進を図るべく御尽力いただきましたことに、この場をお借りして深く御礼を申し上げます。また、芝商店会主催の芝まつりは、子供たちの夏のページになるほどの賑わいでした。素敵な機会を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

その他、子供たちは貴重な経験をしたことでしょうか。自由研究を始めとした成果をじっくりと観たいと思います。

二学期を迎えるにあたり、改めて考えること

さて、四十二日間の夏休みを終え、子供たちが学校に帰ってきました。今年度の二学期は、何よりも本校の創立百四十周年を祝う行事や活動が中心となります。長い歴史の大切な節目を共に祝えるようにしてまいります。すでに、百四十周年を祝う会の皆様、そして保護者の方々には多大なる御尽力を賜っております。改めて感謝をいたしますとともに、今しばらくお力添えを賜りたく存じます。

同時に、子供たちは平素の学校生活を確実に送ることもなります。一見当たり前のようですが、日々を過ごす難しさは、改めて私が申し述べることにははかられるほどのです。私は今、かつて大学で学んだことを思い出しています。それは、「徹底への勇氣」です。

徹底への勇氣とは

今から六十年ほど前、アメリカ合衆国と旧ソ連（ソビエト社会主義共和国連邦）を中心とする科学競争が行われ、各国の教育も、子供たちに科学的な知識を中心に覚えさせることを目指しました。しかし、あまりの膨大な学習内容に、子供たちは「窒息状態」を強いられたとされます。これを「危機的状況」と捉えた教育学者達は、教育内容を絞り込むことを考えます。その際に出てきた言葉は「精選」であり、それをさらに推し進めた「厳選」という表現も用いられました。

このときに、大切にされたことが「徹底への勇氣」でした。これは、旧西ドイツを中心に提唱されましたが、例えば千葉県の教育は大きな影響を受け、また他でもその考え方は注目されました。精選・厳選によって内容は削られるかもしれないがそれを恐れてはならない、しかし、やると決められたことは「徹底的に」行い、子供たちに確実に身に付けさせよう、というわけです。その後、ゆとりを謳った教育は批判されることもありましたが、しかし、私共は、子供たちが一つ一つのことを確実に身に付けさせることには多くの時間を要することも学びました。

子供たちの中に残っていくために

本校の周年行事を迎えるにあたり、子供たちは様々なことを考え、そして感じることでしよう。本校の歴史の長さやその中に見られる様々な事象、例えば、地域の方々と本校との関わりの深さ、特に学校の規模が小さくなった際に本校を存続させるための並々な御努力、戦禍をくぐり抜けてきた際の多大なる苦労、本校でなければ味わえないことを学びます。その際に大切にしたいのは、このことを確実に子供たち一人一人の中にとどめることです。時間はかかることでしよう。正直、そう多くは望めないかもしれませぬ。しかし、だからこそ徹底を図り、そして特に大切なことは子供たちの記憶にとどめられるようにし、そのために選りすぐった経験をさせていきたいと考えています。

最後になりましたが、今学期も本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

